

鹿児島県

男女共同参画センター だより



特集

男女共同参画による
コミュニティ・デザインへのアプローチ

センター事業から

サポーター'Sコーナー

相談室から

インフォメーション

グループ紹介

2014.9 
●●●●●●●●●●
vol.27

7/25~31は、県の男女共同参画推進条例で定められた男女共同参画週間です。女子差別撤廃条約が日本で効力を発した1985年の7月25日を記念して、この日から1週間を本県独自に定め、県民の皆様へ男女共同参画について理解と関心を深めてもらうため、民間団体との協働により様々なイベントを行っています。

今年の週間事業は、かごしま女性政策研究会と協働で、地域コミュニティに焦点を当て、基調講演、分科会、ワークショップ等を通して“一人ひとりの人権の尊重”に根差す男女共同参画の視点に立った地域づくりについて考えました。

基調講演(7/26) Grow together!山科醍醐こどものひろば 地域に根差した30年の活動から



講師：村井 琢哉さん
 特定非営利活動法人
 山科醍醐こどものひろば理事長

家庭の事情などで貧困や孤立に陥った子どもを支援している「山科醍醐こどものひろば」の村井理事長に、食事支援や学習支援などのサポートや孤立の解消など、地域と連携した実践的な取り組みやその背景にある社会や地域の課題について報告していただきました。その要旨を紹介します。

山科醍醐こどものひろば

「山科醍醐こどものひろば」は、京都市山科区と伏見区醍醐地域に住む約3万人の子どもたちを対象に、地域に住むすべての子どもたちが心豊かに育つことをめざし、地域の社会環境・文化環境がより良くなることを大きな目的に活動しています。子どもと大人が一体となったものに真剣に向き合うことで、「共に育ちあいたい」との願いを大切に、あらゆる人にとって自分らしく生きることのできる、人との交わりを大切にしています。原点は1980年に発足した「山科醍醐親と子の劇場」です。

活動から見えてきた課題

集団活動をたくさんしていく中で、学校に居場所がなかったり、いじめられたり、集団に馴染めない子どもたちの姿をたくさん目にするようになってきました。そういった子どもたちの家庭訪問をすると、多くの割合でシングルマザーの家庭で、涙ながらにしんそさを語られます。大きな悩みを抱えながら過ごされている女性に出会います。

貧しい≠不幸せ

貧しさから派生しやすい「困った」を解決する

子どもが貧困という話は、家が低所得とか貧乏という言葉で括られますが、そういった家庭環境によって子ども自身が困った状態になりやすい、そういう土壌をつくりやすいという話です。貧しいからといって不幸せなわけではありません。貧しさにより様々な問題が起こりますが、解決できれば困りません。派生しやすい困ったことを解決することがとても大事です。

親を取り巻く状況

貧困におかれている子どもたちの多くの親はシングルマザーが多く、離婚したあと、子どもと一緒に生き延びるために、一生懸命仕事をした結果、子どもとかわかる時間が少なくなっています。また、仕事をいくつも掛け持ちしているため、家にほとんどいない、近所付き合いもできない、学校の呼び出しも最低限しか対応できない。地域としても声をかけるけれど反応がないということになります。母親側からすると、とても反応できる状況にはないのですが、地域では、あの家は呼びかけても何も反応してくれないから、もういいやということであきらめて縁が切れていきます。

その結果、親は精神的にしんどくなり、子どもも不安定な家庭環境になっているのに放置してしまふ。今の日本では6人に1人の子どもがそういう状態にあります。また、児童虐待について、結果として虐待という暴力で亡くなっているかもしれませんが、そこに至るまでに貧しさが大きく横たわっていたりとか、一人親という状態が引き金になっています。そのリスクをより多く背負うのが女性側であるというのが今の社会です。

居場所づくり

集団になじめない子どもたちに、居場所づくりとして、大学生ボランティアが週に数回、子どもと一緒に料理を作って食べ、入浴したり、宿題をしたり、寝ている様子を見て、寄り添いながらサポートしています。子どもがしたい余暇活動を通して成功体験を増やしたり、暴言や暴力を振るっても向き合ってくれる大人もいることに気づいていく、そういった場面をつくっていくことで、自己肯定感が高まり、不安、不信、孤独を解消させています。

家の中で当たり前のようにやれているはずのものがやれていない、体験していない、たった一緒にごはんをつくるという行為や食べるという行為がうれしいと言います。そういった場面をつくっていくことが当たり前のように、難しくなっている世の中です。それを、今少しずつ地域の方々やボランティアの方々と一緒につくっています。

ななめの関係、ロールモデルとの出会い

活動では、いかに子どもたちに、多様な大人たちや自分に近い存在の若者に出会ってもらうかということ意識しています。子どもたちが会える人という、親、親戚以外で育ちに影響を与える大人は先生です。先生でもなく、親でもない、そういった意味ではしつけ等々のまなざしではない大人との出会いは、子どもたちにとってちがう感覚を呼び起こします。こんな大人もいるんだ、指導も何もしないけれど、とりあえず横にいて勉強に付き合ってくれ、一緒に無邪気に遊んでくれる。そういう存在に気づく中で、仕事には目標を持ってなかったり、夢を描けないかもしれないけれど、あんな人にはなりたい、あんなお兄ちゃん、お姉ちゃんにはなりたい、そういうモデルみたいなものを子どもたちに届けていこうと取り組んでいます。

地域の理解が重要

子どもの貧困対策を行っていく上では、人や場所、支えていく資源が必要ですが、その場所で行っていくためには地域の人たちに理解してもらうことがとても重要になってきます。しかし、この理解が活動の広がりや妨げていたりします。地域で熱心に活動をやりたい主婦の方とかおられるんですが、でも、私はどの立場で地域の会議に出たりとか、発言していいのか困ると言われます。

私たちがこだわらないといけないのは、だれがやるか、だれに話しか、どういう枠組みでやるかということも大事ですが、本当にその学区で困っている子どもがいるのであれば、その困っている悩みを解消することにこだわらなければいけない。意外とブレーキをかけている人たちは既存の役をされている方で男性が多いです。

どうい立場の人たちであっても参加できるまにしていこうことが大事です。まちそのものの課題に気づけるのは、そこに住む方々だけです。層書きや性別、年齢、障がいの有無などには関係なく、それぞれが社会の問題、地域の問題だということをちゃんと伝えていくことが非常に大事です。

男女共同参画や市民参画という取組を進めていくことで、自分たちで気づいた問題を自分たちで解決していく、そのプロセスが社会や行政が解決していくための流れになっていくことを知ってほしいと思います。

まずは「まなざし」をかえるところから

今、子どもたちを応援しなければ、日本の未来はないという中で、まずは「まなざし」をかえることが大事だと思います。例えば、あいさつ運動がありますが、学校の先生はあいさつができる子どもを育てるために指導します。地域の人たちは指導するより、先に自分たちがあいさつする姿を見せていくことが大事なんです。「まなざし」をかえることは、私たちの姿勢や行動をかえていくこと、子どもたちの主体性を高めることや男女共同参画を意識してもらうには、大人もそのモードにならないとなかなか浸透していかないと思います。

孤立からともに育ち合う地域をつくろう!

つまずいた子どもたちや若者、社会人、高齢者も含めて、そのつまずきや一旦ストップした歩みをどうやってリスタートしていくのか、方向転換するのかを考える余裕をつくるのがまちの中で大事だと思います。

子どもの貧困の中では、貧しさを解消することはなかなかできませんが、孤立を防ぐということは私たちの地道な活動でもできることです。是非そういったことを意識して動いていただければと思います。孤立を解消していく、孤立からともに育ち合うまちを是非つくっていただければと思っています。

貧困 = 貧乏 + 孤立

貧乏の解消はなかなか地域や学校では解決は難しいですが、**孤立を解消**することはできると思っています。

子どもが貧困なのではなく、子どもをその**状態、環境**に追いやって**地域や社会の問題**でもある。

しかし、その解消も**みんなの一步**で解消できると思っています。

(村井先生の講演資料より)

講師からのコメント

地域や社会そのものがとても複雑になってきています。地域の課題を解決していくために、全世代、性別を超えて参加し、地域としてデザインしていくことが大事だと思います。

今、地域で頑張っている方は困っている方々の視点に立ちながら声をひろうことを是非していただきたいです。困っている人たちが本当に困っていることを伝えるまにに変えていっていただけたらと思います。

男女共同参画の語は子どものときから色々刷り込まれている部分もありますので、そうではないということ子どもとのときから積み上げていってこれたらと思います。

オープニングアクト(7/26)

オープニングとして、当センター主催の男性向けセミナー参加者から発足したグループ「pelan pelan kira kira」がつばやきパフォーマンス(つばやきを基にした朗読)を行いました。長年仕事中心で生きてきた男性グループの「つばやき」からは、その背景にある「男性は仕事、女性は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担意識、それに基づく社会システム、社会の制度や慣行のあり方が個人の生き方に大きな影響を及ぼしていることが浮かび上がってきました。最後は、グループ全員で「We Do!」と大きな声で男女共同参画週間事業のスタートを飾りました。



「pelan pelan kira kira(プランプランキラキラ)」は、平成25年11月に男女共同参画センター主催で開催した「男のスタンディング・ノート」として50代・60代の男性向けセミナーに参加された方々が、その出会いをきっかけに発足した会です。仕事中心の生活からゆとりとした時間の中で人とのつながりを楽しみに、現在、月1回交流を深めています。

男女共同参画基礎講座 6/7,6/14,6/28,7/5

センターオープン当初から開催している人気講座には、今年も140人を超える応募がありました。たもつゆかりさん、高崎恵さんを講師に、第2次鹿児島県男女共同参画基本計画を柱とした男女共同参画の基礎知識や、身近なところで男女共同参画の理解を広げるためのスキルを学びました。最終日の講座終了後、受講者の交流会を実施し、和やかな雰囲気の中、新たにできた仲間との親睦を深めることができました。



相談業務研修会 6/27

相談業務に携わる相談員や県・市町村の担当者等を対象とした研修会を開催し、川喜田好恵さん(日本フェミニストカウンセラー協会代表理事)を講師に、DV被害者支援に必要な知識を習得し、事例検討を通してスキルアップを図ることができ、大変充実した研修会となりました。



学校への男女共同参画お届けセミナー 7~9月

上半期に下記の4校が実施した男女共同参画に関するセミナーに、それぞれ講師を派遣しました。

- 7/22 牧之原養護学校
「アサーティブなコミュニケーションについて」(教職員対象)
講師 高崎恵さん
- 8/28 加治木高等学校
「学校におけるアサーティブコミュニケーションについて」(教職員対象)
講師 高崎恵さん
- 9/11 薩南工業高等学校
「デートDVについて」(全校生徒、教職員対象)
講師 谷崎和代さん
- 9/30 加世田常盤高等学校
「男女交際のあり方・情報社会と性について」(全校生徒、教職員対象)
講師 下敷須美子さん



子どもたちの男女共同参画学びの広場事業 7~9月

2年目になる当事業は、上半期に下記の3校が高崎恵さんを講師にワークショップ等を実施しました。下半期は7校が取り組みます。

- 鹿児島市立喜入中学校 7/22 職員研修
- 9/24 2年生ワークショップ
- 南さつま市立内山田小学校 9/19 保護者・地域住民へのワークショップ
- 9/29 全校児童ワークショップと職員研修
- 志布志市立蓮原小学校 9/22 職員研修



サポーター'sコーナー



委嘱式にて

4月19日(土)に今年度のサポーター委嘱式がありました。今回委嘱を更新されたのは、センターサポーター2人と託児サポーター10人の合計12人です。センターサポーターは事業運営をサポートしたり、センターの情報発信したりします。託児サポーターは、託児サービスを行う事業でお願いしたりお子さんを安全に見守ります。よろしくお祈りします!!



週間事業の受付サポート

相談室から

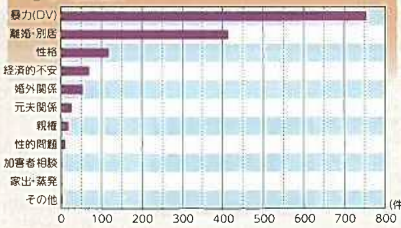
2013年度の相談の状況

相談件数は、一般相談2,107件(電話1,930件、面接177件)、専門相談63件の計2,170件で、開設以来初めて2,000件を超えました。また、相談件数の82%が女性からの相談で夫婦関係に関する相談が多く、中でも「ドメスティック・バイオレンス(DV)」に関する相談内容が754件と一般相談全体の4割近くに及び、昨年度に引き続き最も多くなっています。また、男性からの相談も前年度の3割増の相談件数でした。

相談内容件数(一般相談)



「夫婦関係の問題」における相談内訳別件数(一般相談)



ぴあ・すてーしょん

鹿児島大学医学部保健学科学者グループ「ピア☆ぴあ☆ごしま」が、若者の男女交際の悩みやデートDV、性感染症等についての相談に応じています。

日時 毎月第3土曜日 14:00~16:00
H26 10/18, 11/15, 12/20
H27 1/17, 2/21, 3/21

場所 かがしま県民交流センター 1階ミーティングルーム

INFORMATION

インフォメーション

2014年度下半期に予定されている主なセンター事業
(場所の記載がない行事の場合は、かがしま県民交流センターです。)

★は、民間団体との協働事業

「女性に対する暴力をなくす運動」(11/12~11/25)

- 街頭キャンペーン★
期日・場所 11月12日(水) 鹿児島中央駅前
実施団体 国際ソロプチミスト鹿児島 等民間団体・関係機関
- パネル展(パープルリボンツリーも設置)
期日・場所 11月12日(水)~25日(火)
かがしま県民交流センター
11月 1日(土)~25日(火)
県庁展望ロビー

- アミュラン点灯
日時 11月12日(水)と25日(火)
- 女性のための法律110番(女性弁護士による無料相談)
日時 11月18日(火)10:00~16:00
予約先 099-221-6630(事前の予約が必要)

- 暴力被害者支援セミナー
~DV・性犯罪被害者の回復のために~
日時 11月13日(木)
講師 竹下 小夜子さん(精神科医師)

高校生のためのピアサポーター養成講座

悩みや問題を抱える同年代をサポートできる高校生を育成するワークショップで楽しく学ぶ講座
日時 12月14日(日)10:00~16:00
実施団体 鹿児島大学医学部保健学科学者グループ「ピア☆ぴあ☆ごしま」

50代・60代*男の「スターティング・ノート」ふたたび!

男性の男女共同参画への正しい理解と職場や家庭における固定的性別役割分担意識の気づきと解消をめざしたセミナー
日時 11月24日(土)13:00~16:45
講師 吉岡 俊介さん(シニア産業カウンセラー)
※定年後の人生をより豊かに自分らしく生きるための気づきと1歩踏み出すきっかけ!

子どもたちの男女共同参画学びの広場事業

下半期は、以下の小・中学校が当事業に取り組みます。
11月10日(月) 東串良町立根原小学校
11月18日(火) 南さつま市立大浦小学校
12月 4日(木) 和泊町立立成小学校
12月 8日(月) 与論町立与論中学校
12月 9日(火) 霧島市立校園小学校
12月12日(金) 志布志市立蓮原小学校
12月15日(月) 南さつま市立笠沙小学校
12月16日(火) 南種子町立長谷小学校
12月18日(木) 鹿児島市立喜入中学校

女性のエンパワメントセミナー

女性の就労継続やキャリアアップ、働きやすい環境づくりのためのセミナー
実施期間 10月~2月
実施団体 有原会社ティ・エヌ・ティ

デートDV防止セミナー

デートDV防止について地域住民対象に若者による講話やワークショップを実施
日時 11月23日(日)9:30~11:50
会場 鹿児島市松元公民館
実施団体 鹿児島純心女子大学 学生サークル S&I

デートDV防止セミナー

(与論地区) 日時 12月6日(土) 10:00~16:00
7日(日) 10:00~12:00
場所 与論町中央公民館
(伊佐地区) 日時 11月11日(日) 10:00~16:00
18日(日) 10:00~16:00
場所 大口ふれあいセンター

グループ紹介

スマイルネットいぶすぎ(指宿市)



「DV防止パネル作成、巡回展示中です!」

平成22年、男女共同参画地域推進員4名と指宿市市民協働課を中心となり、懇話会・民生・人権擁護委員、女性連役員、教職員等、計17名のメンバーでスタート(6名入り現在も17名)。月1回の定例会・学習会をメインに、講演会・出前講座(学校・地域等)、市民講座等への協力、毎年度初め、市内小中高21校を訪問し広報啓発活動を行っています。昨年は指宿商業生と一緒にJR鹿野今泉駅でパープルリボンツリー展示、県のデートDV啓発リーフレットの配布等を行いました。
今年も、3回目の市提案公募型事業を活用し、DV防止パネル・ポスター・パンフレットを作成、市内の諸機関(郵便局・銀行・保育園・学校・公民館・図書館等、計20か所以上)と、イベントでの巡回展示中。展示先の責任者とDVの意見交換を行う中で、先方から実際のDV事例を熱心に語られるケースもあり、予想外の手応えを感じています。
メンバーの負担にならないよう、原則、できる人を中心に、できる時に参加、定例会報告書で緩やかなネットワークを保ち、菓の花祭りや懇親会も交えた活動をしています。最後に、市民協働課の細やかな支援には本当に感謝、後援や職業を持ち忙しいメンバーにとって、力強いサポートになっています。

男女共同参画センター関連のご案内



《図書等の閲覧・貸出》

男女共同参画に関する図書は貸出は、1人5冊まで期間は3週間以内です。団体等へはDVOの貸出も行っています。

《ミーティングルーム》

男女共同参画に関する学習会等にご利用いただけます。(要事前予約)
(利用時間)9:00~17:00
(休館日)月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日~1月3日

交通案内
「JR利用」または「市電・バス」
鹿児島駅(徒歩約10分)
市役所前(下車徒歩約5分)
水族館前(下車徒歩約5分)
駐車場
約450台収容 150円/30分
※センター利用者は2時間まで無料。
総合案内内で2時間無料の認証を受けて下さい。

鹿児島県男女共同参画センター

(かがしま県民交流センター内) 〒892-0816 鹿児島市山下町14-50
●「男女共同参画センターだより」の掲載記事(バックナンバーを含む)は、ホームページにも掲載しています。

TEL 099-221-6603
FAX 099-221-6640
電子メール harmony@kagoshima-pac.jp
ホームページ http://www.kagoshima-pac.jp